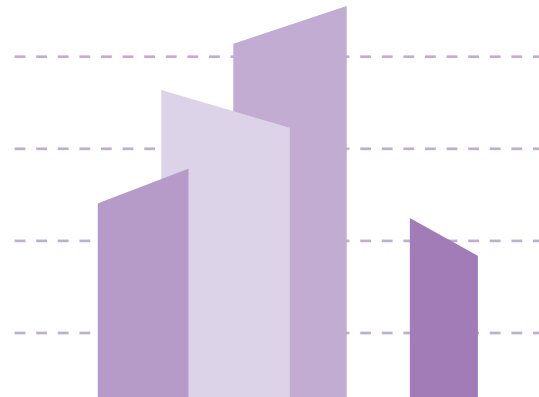




# 第2部 岩手のくらし

## 第8章 自然環境

～一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、  
自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手～



## 良好な水環境

### ■ 自然や野生動植物を大切にしながら生活していることについては満足が不満を上回る

令和7年県の施策に関する県民意識調査によると、「大気や水がきれいに保たれ、自然や野生動植物を大切にしながら生活していること」について、満足（「満足」＋「やや満足」と回答した人の割合は33.7%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の19.6%を上回っています（図1）。

### ■ 森林資源量が豊かな県土

本県は、県土の大部分を森林が占めており、豊かな自然環境に恵まれています。令和4年（2022年）3月31日現在の森林率（総面積に占める森林面積の割合）は76.6%で、全国平均の67.1%を9.5ポイント上回り、東北6県では1位、全国では7位となっています（図2）。

### ■ 本県の公共用水域の環境基準達成率は高水準

本県には、北上川、馬淵川の2つの大きな水系をはじめとして、全体で315の法定河川があり、総指定延長は3,123kmとなっています。

令和5年度（2023年度）の本県の公共用水域（河川、湖沼、海域）における水質汚濁の代表的な指標であるBOD（注1）及びCOD（注2）の環境基準の達成率は98.3%となっています。

本県の公共用水域のBOD及びCODの環境基準の達成率は90%台後半で推移しており、全国平均に比べると、より良好な水環境が保たれています（図3）。

（注1）BOD：生物化学的酸素要求量

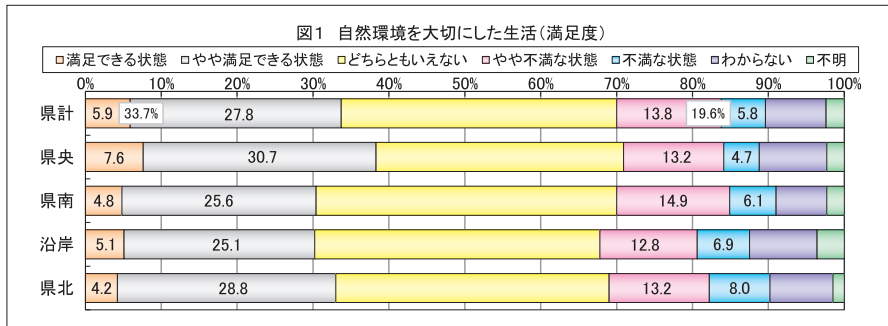
（注2）COD：化学的酸素要求量

### ■ 公害苦情件数は全国平均を下回る

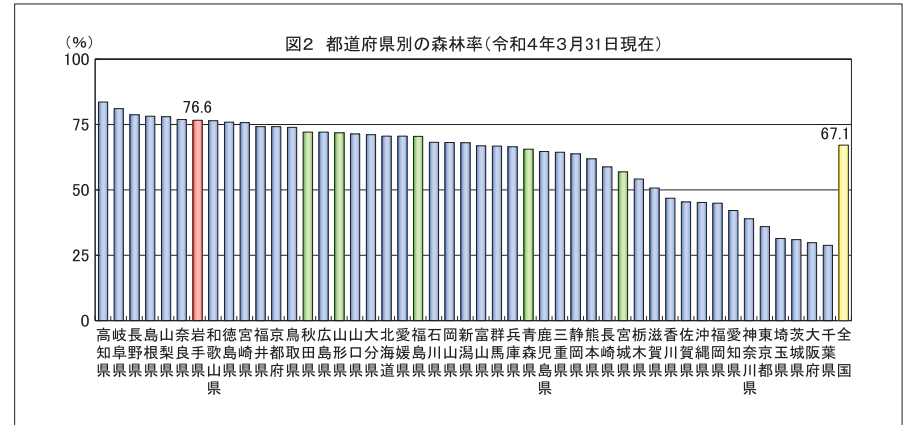
各都道府県及び市区町村には、公害（注）苦情を解決するために「公害苦情相談窓口」が設けられています。

本県の令和6年度（2024年度）の公害苦情件数（人口10万人当たり）は45.9件と、前年度から0.9件増加しています。一方で、過去10年間一貫して全国平均を下回っており、令和6年度は全国平均より8.2件少なくなっています（図4）。

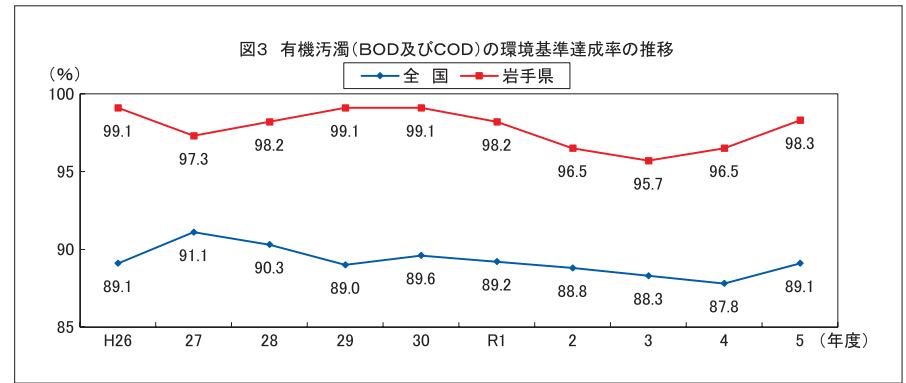
（注）公害：環境基本法第2条第3項に定める「事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤の沈下及び悪臭によって、人の健康又は生活環境に係る被害が生ずること」



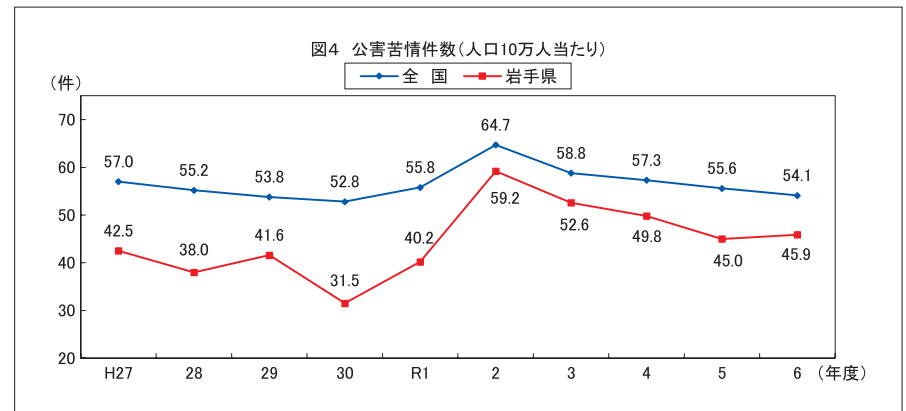
資料：県ふるさと振興部「令和7年県の施策に関する県民意識調査」



資料：林野庁「森林資源の現況」



資料：県環境生活部「公共用水域水質測定結果」



資料：総務省「公害苦情調査」、総務省統計局「国勢調査」

## ごみの総排出量は11年連続で減少

### ■ ごみの総排出量は11年連続で減少

令和5年度（2023年度）の本県のごみ総排出量は37.7万トン（前年度比4.0%減）となり、平成25年度（2013年度）から11年連続で減少しました。

また、令和5年度の県民1人1日当たりのごみ排出量は875グラムで、全国平均の851グラムを上回っています（図1）。

令和5年度の県民1人当たりの年間ごみ処理費用（建設改良費を除く）は、13,752円と全国平均を上回っており、東北6県では秋田県、青森県に次いで3番目に高い水準となっています（図2）。

### ■ 1人1日当たり排出量は生活系、事業系いずれも横ばい傾向

生活系ごみと事業系ごみの1人1日当たりの排出量の推移をみると、近年は横ばい傾向にあり、令和5年度（2023年度）の生活系ごみは606グラム、事業系ごみは270グラムとなっています（図3）。

### ■ リサイクル率は全国平均を下回って推移

令和5年度（2023年度）の本県のリサイクル率（注）は16.4%（前年度差0.4ポイント減）となり、6年連続で減少しています。また、全国を下回って推移しており、令和5年度は3.1ポイントの差となっています（図4）。

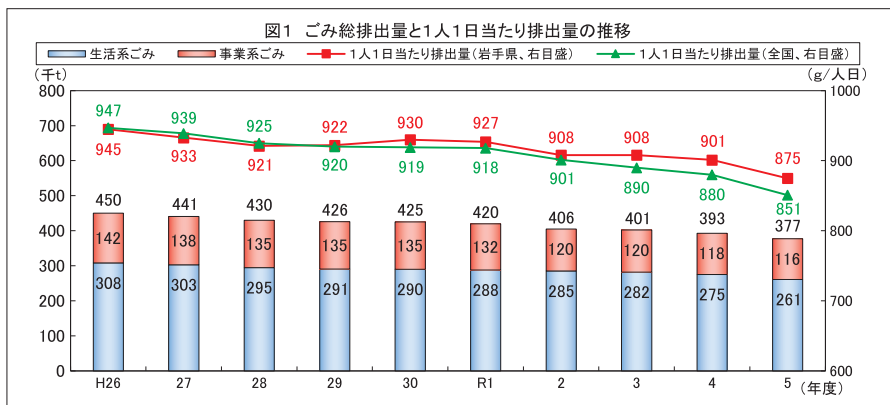
（注）リサイクル率 =  $\frac{\text{直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量} + \text{集団回収量}}{\text{ごみの総処理量} + \text{集団回収量}} \times 100$

### ■ 1人1日当たりのごみ排出量は県央が最も多い

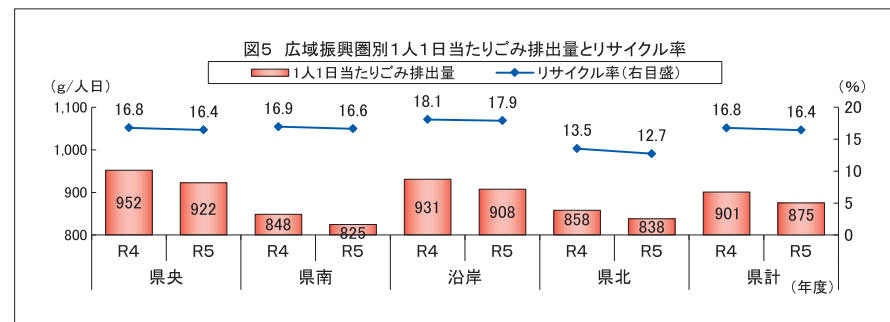
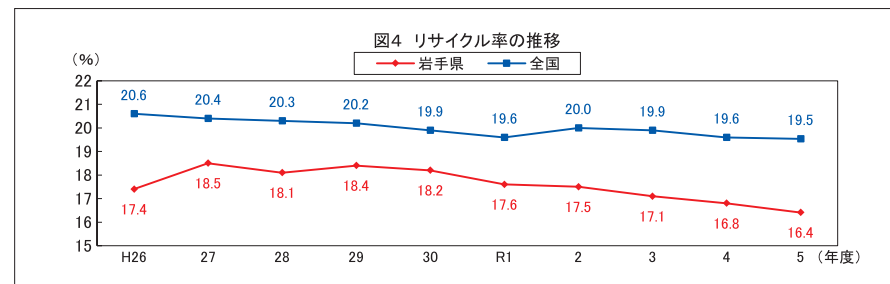
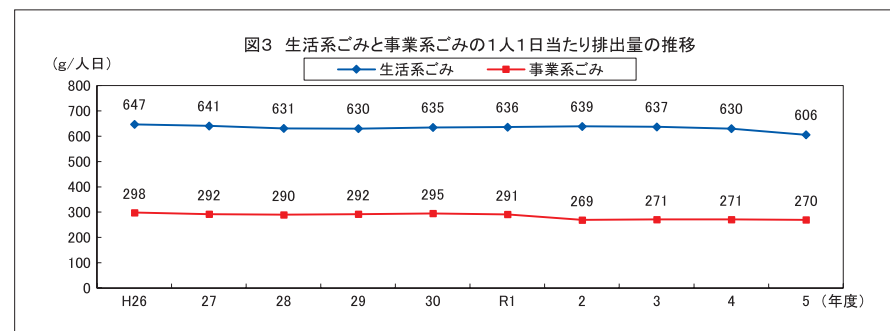
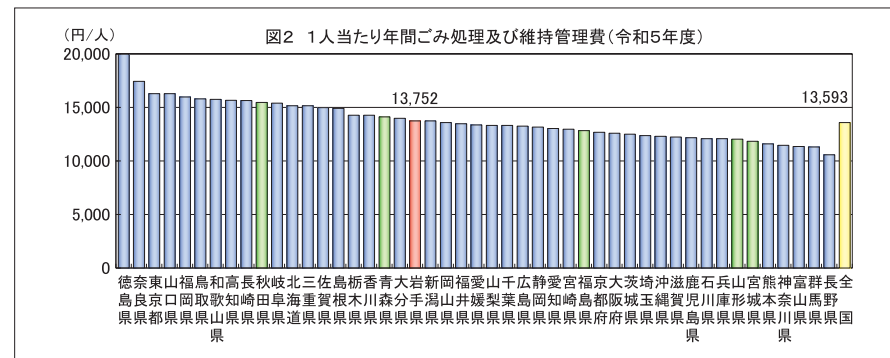
令和5年度（2023年度）の広域振興圏別の1人1日当たりのごみ排出量をみると、県央が922グラムで最も多く、次いで沿岸（908グラム）、県北（838グラム）、県南（825グラム）の順となっています。

リサイクル率をみると、沿岸が17.9%で最も高く、次いで県南（16.6%）、県央（16.4%）の順となっています。

また、1人1日当たりのごみ排出量及びリサイクル率について前年度と比較すると、いずれの圏域においても前年度から減少しています（図5）。



資料：環境省「一般廃棄物処理実態調査」



以上資料：環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」

## 産業廃棄物排出量は減少傾向

### 産業廃棄物排出量は減少傾向

令和5年度（2023年度）の本県の産業廃棄物排出量は220万5千トンと、令和元年度（2019年度）以降、最も少なくなっています。

業種別にみると、建設業が94万9千トンと最も多く、次いで電気・水道業の67万8千トン、製造業の48万9千トンの順になっています。

また、種類別にみると、汚泥が95万6千トンと最も多く、次いでがれき類の77万6千トンの順になっています（図1、2）。

### 盛岡地域及び岩手中部地域で排出量全体の6割近くを占める

令和5年度（2023年度）の地域別の産業廃棄物排出量は、盛岡地域が72万8千トン（全体の33.0%）と最も多く、次いで岩手中部地域の55万2千トン（同25.0%）の順となっており、盛岡地域と岩手中部地域の排出量は、県全体の約6割を占めています。

前年度と比べると、岩手中部地域、気仙地域、宮古地域及び二戸地域の排出量は減少しています（図3）。

（注）地域区分は下表のとおり。

盛岡	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町	気仙 釜石	大船渡市、陸前高田市、住田町 釜石市、大槌町
岩手中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村
胆江	奥州市、金ヶ崎町	久慈	久慈市、普代村、野田村、洋野町
両磐	一関市、平泉町	二戸	二戸市、軽米町、九戸村、一戸町

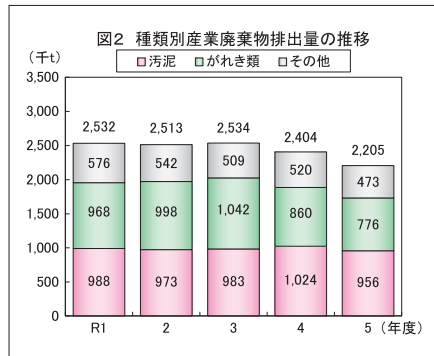
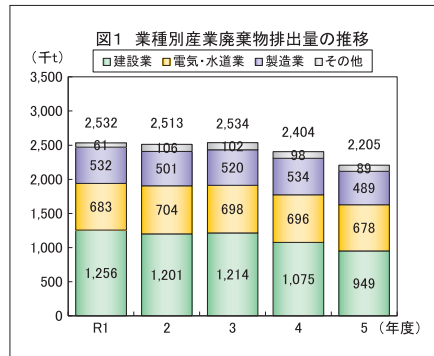
### 再生利用量の割合は低下傾向

令和5年度（2023年度）の産業廃棄物排出量を処理状況別にみると、再生利用量が122万9千トン（全体の55.7%）となり、令和2年度（2020年度）をピークに排出量は減少しています。

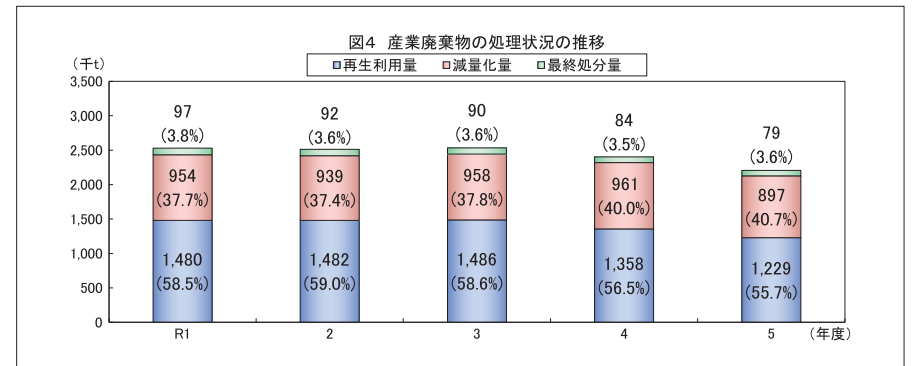
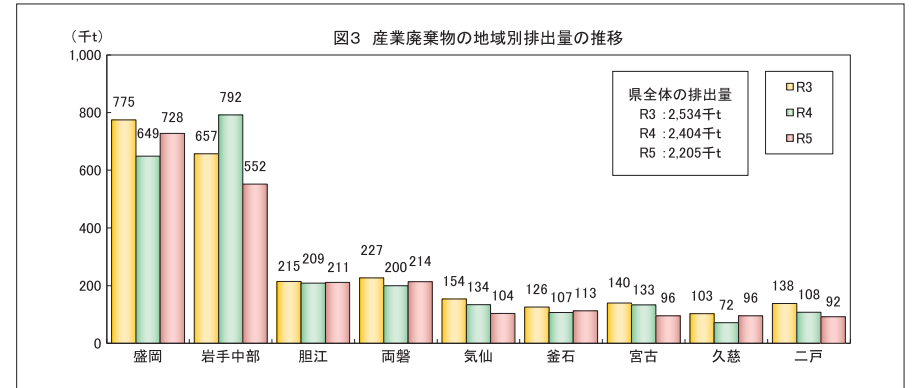
また、減量化量は89万7千トン（排出量全体の40.7%）、最終処分量は7万9千トン（同3.6%）となっています（図4）。

### 本県の不法投棄新規判明事案はなし

令和5年度（2023年度）の本県における不法投棄（新規判明事案）はありませんでした。都道府県別にみると、不法投棄量が最も多いのは、兵庫県（20,060トン）、次いで和歌山県（8,700トン）、茨城県（5,607トン）の順になっています（図5）。

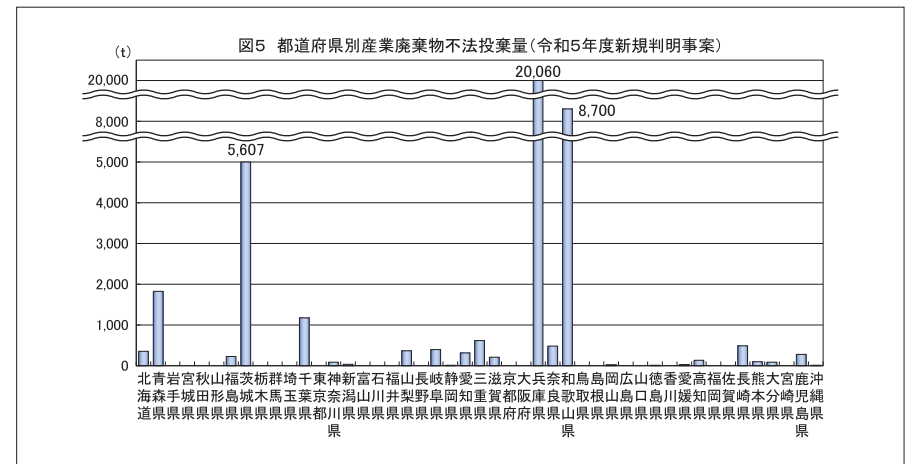


以上資料：県環境生活部「産業廃棄物実績報告書等入力集計等業務報告書」、同「産業廃棄物実態調査及び産業廃棄物実績報告書等入力集計等業務報告書」



※（ ）内は排出量に占める割合

以上資料：県環境生活部「産業廃棄物実績報告書等入力集計等業務報告書」、同「産業廃棄物実態調査及び産業廃棄物実績報告書等入力集計等業務報告書」



資料：環境省「産業廃棄物の不法投棄等の状況（令和5年度）」

## 再生可能エネルギー導入量は太陽光発電を中心に増加

### ■ 温室効果ガス排出量は基準年比で33.8%減少

令和4年度（2022年度）の本県の温室効果ガス排出量は967万トン（前年度比7.4%減）となり、第2次岩手県地球温暖化対策実行計画（令和3年（2021年）3月策定、令和5年（2023年）3月改訂）による基準年（平成25年度（2013年度））比で494万5千トンの減少（33.8%減）、前年度から46万7千トンの減少（7.4%減）となりました。基準年以降、排出量は減少傾向が続いています（図1）。

また、令和4年度の二酸化炭素総排出量は1,076万9千トンとなり、部門別にみると、基準年（平成25年度）比で、家庭部門が27.7%の減少、次いで産業部門（24.0%減）、業務部門（21.8%減）、運輸部門（12.1%減）となっています（図2、3）。

（注）温室効果ガス排出量は、実排出量から再エネ導入と森林吸収の削減分を差し引いたもの。排出量の推計に用いる国の統計データが過去に遡って修正されるため、過去に公表した数値が再計算されている。

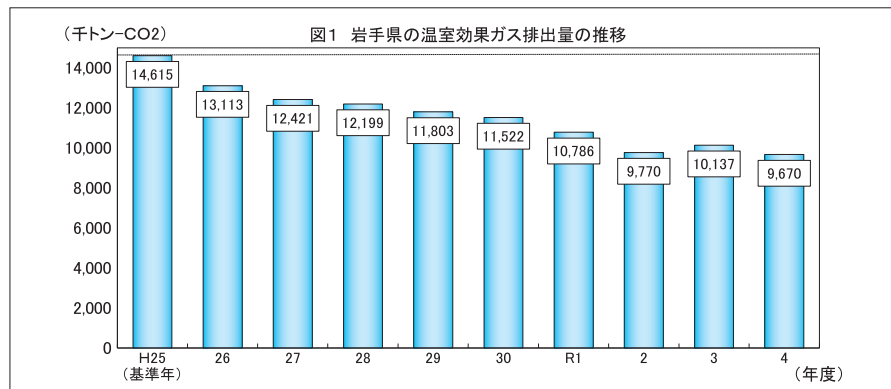
### ■ 次世代自動車の保有車両数は前年より7.5%増加

運輸部門の二酸化炭素排出量の多くは自動車から排出されています。本県の次世代自動車の保有車両数をみると、令和7年（2025年）3月末で150,785台となり、前年の140,221台に比べて10,564台（7.5%）増加しました。次世代自動車のうちハイブリッド車の割合は91.7%と、大部分をハイブリッド車が占めています（図4）。

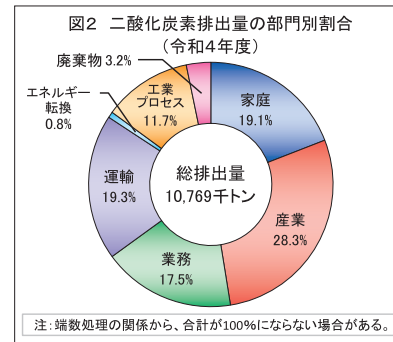
### ■ 再生可能エネルギー導入量は太陽光発電を中心に7.3%増加

本県の再生可能エネルギーによる電力自給率は、令和5年度（2023年度）は45.7%となっており、平成26年度（2014年度）以降の推移をみると増加傾向にあります（図5）。

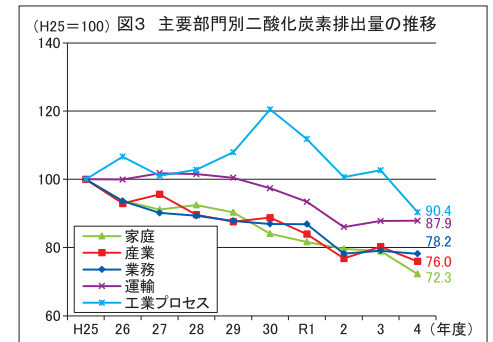
また、本県の再生可能エネルギー導入量（電力利用）をみると、令和5年度末で太陽光発電を中心に1,967メガワット（MW）となっており、前年度と比べ7.3%増加しています。エネルギー種別でみると、前年度に比べ最も増加したのは、風力発電299MW（49.5%増）で、次いで地熱発電76MW（24.6%増）となっています（図6）。



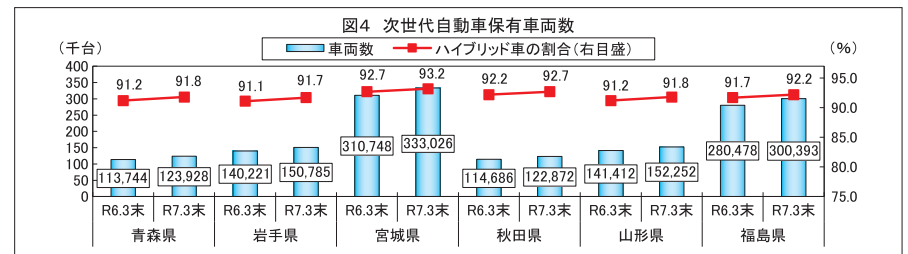
資料：県環境生活部「岩手県における2022年度の温室効果ガス排出量について」



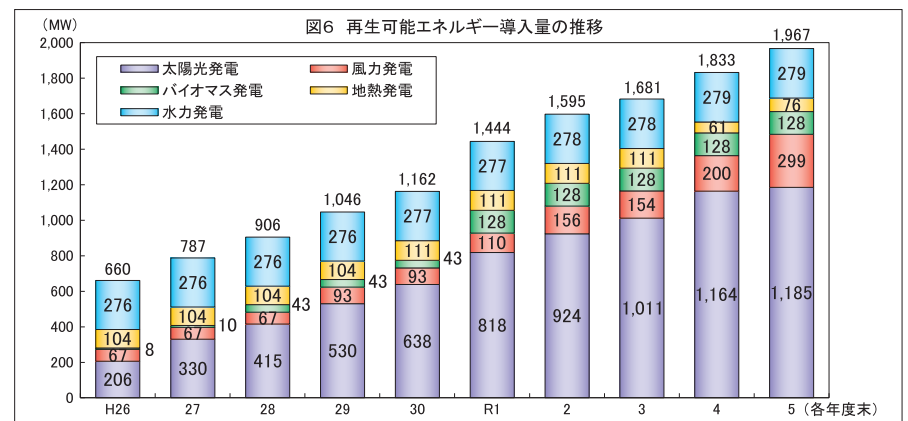
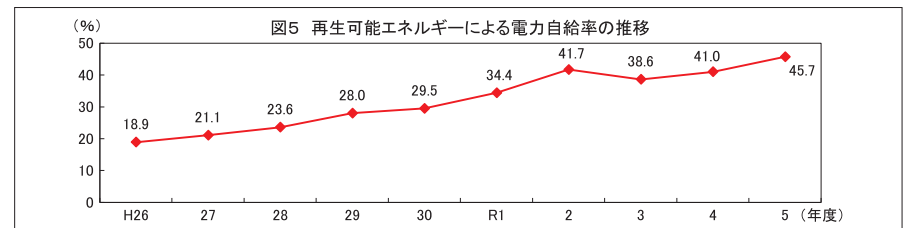
注：端数処理の関係から、合計が100%にならない場合がある。



以上資料：県環境生活部「岩手県における2022年度の温室効果ガス排出量について」



資料：東北運輸局「運輸要覧」



以上資料：県環境生活部「環境報告書」